

平成28年8月15日～8月21日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について (お知らせ) (平成28年度第14報)

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月13日(金)から情報提供を開始しました。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. この期間(8月15日～8月21日)の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上(危険)の時間数 (168時間中)

1. 久米島(沖縄県)	48時間
2. 福岡(福岡県)	33時間
3. 鹿児島(鹿児島県)	31時間
4. 清水足摺(高知県)	30時間
5. 種子島(鹿児島)	28時間
5. 牛深(熊本)	28時間
5. 西表島(沖縄)	28時間

<参考>全国9都市の観測地点(暑さ指数31℃以上)

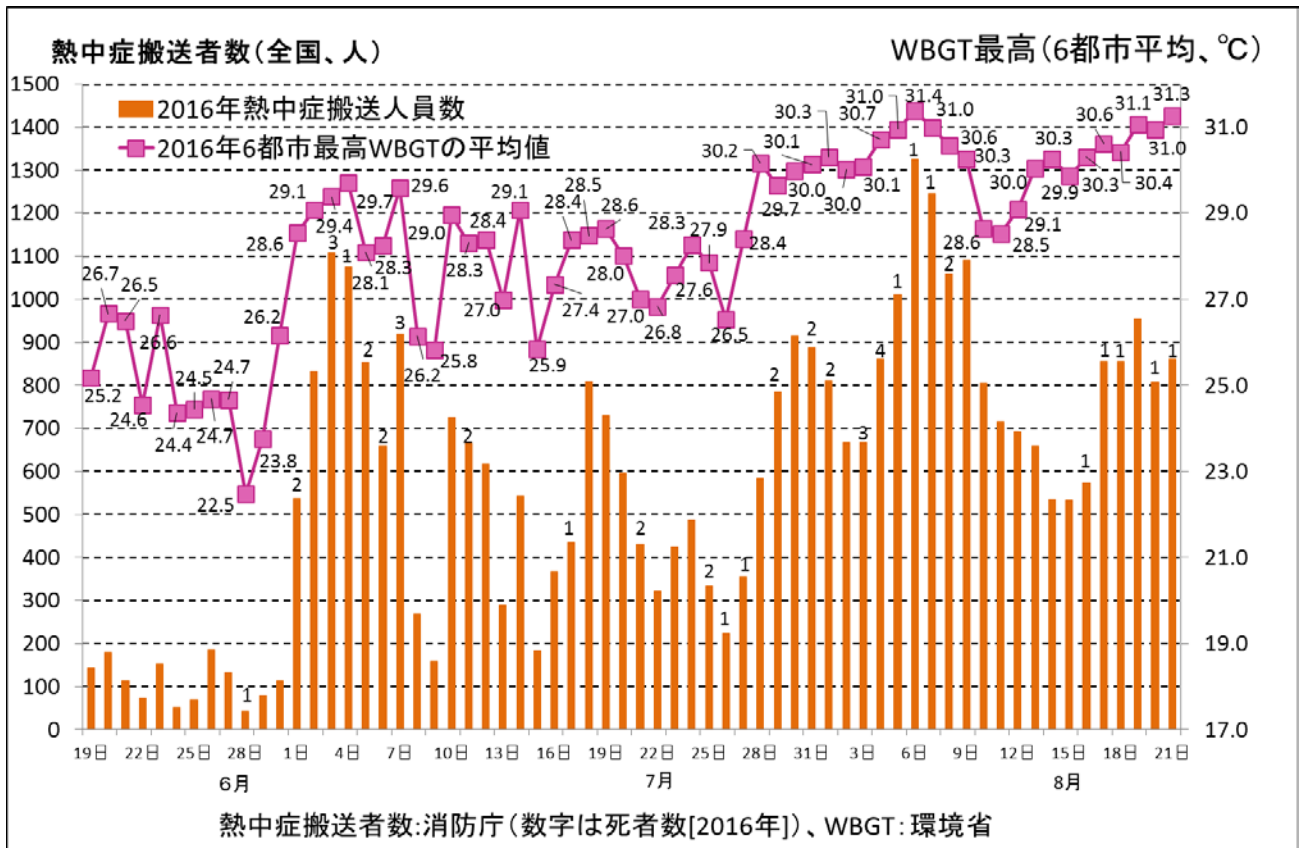
札幌(北海道)	0時間
仙台(宮城県)	0時間
新潟(新潟県)	1時間
東京(東京都)	7時間
名古屋(愛知県)	7時間
大阪(大阪府)	12時間
広島(広島県)	1時間
福岡(福岡県)	33時間
鹿児島(鹿児島県)	31時間

(注1) 暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

(注2) 暑さ指数31℃以上の時間が、今週は北海道を除く全国で観測されました。また、北海道でも30℃近くになる地点が現れ、全国の多くの地点で28℃以上となりました。なお、暑さ指数31℃以上、28℃以上とは、(公財)日本体育協会の指針において、それぞれ、運動は原則中止レベル、厳重警戒レベルです。

3. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



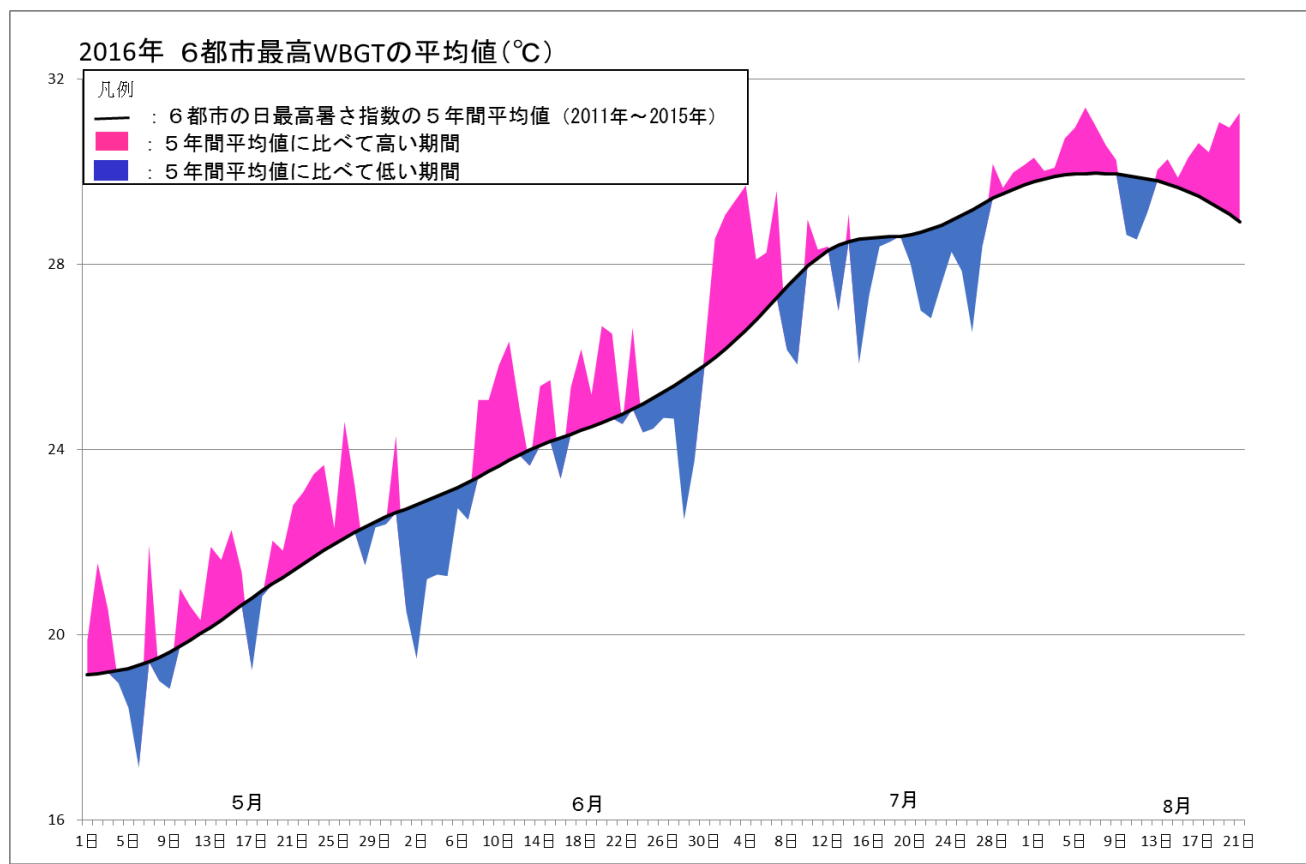
- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、8月15日～8月21日までの期間は15日を除いて30°Cを超え、先週よりかなり高くなりました。過去5年間の平均値と比べても高い状態となっています(次ページ参照)。熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によると、期間の初めの15日、16日には500人を超え、その後も800人を超える状況が続いています。今期間中に5人の方が熱中症で亡くなりました。
- 北海道を除く広い範囲で、熱中症危険度の「危険」を示す31°C以上となる時間がありました。また、北海道でも30°C近い値となったところもあり、全国の広い範囲で「厳重警戒」を示す28°C以上となりました。このため、全国的に熱中症に警戒が必要な状態が続いています。
- 気象庁発表(8月24日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温とも、全国的に平年並か平年より高い日が多く、かなり高い所もあるでしょう。」とされています。この期間は、平年の値が年間でも高い時期にあたりますので、週間天気予報などを踏まえ、十分に熱中症への警戒が必要です。
- 湿度が高く、晴れた日には気温も高く蒸し暑くなります。特に天気予報などに注意し高温になる日には、無理な作業や運動をせず、こまめな水分補給や休息をとるなど、体調管理に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

4. 2016年の6都市の日最高暑さ指数と過去5年間平均（2011～2015年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、平年より高い状態が続いています。週間天気予報などを参考に、十分な暑さ対策を心がけてください。